

普及現地情報

発信年月日:令和8年(2026年)6月19日

所 属 名:高島農産普及課

番 号:H26008

発 信 者 名:三溝、山下



今津町柿部会の研修会・スマート農機実演会の開催を支援しました。

令和8年6月9日(火)に今津町柿部会主催の摘果・夏季剪定の研修会およびスマート農機(スピードスプレーヤ)の実演会がありました。研修会では、当課が講師を務めるとともに、滋賀県果樹組合連合会認定の「滋賀くだもの作り名人」2名にも実演・解説いただきました。また、実演会では省力・軽労化に向けた部会員の注目度の高さがうかがわれました。

旧今津町深清水地域は県内最大規模の歴史あるカキ産地で、今津町柿部会が約20haを栽培しています。部会員の高齢化が進み、担い手の栽培面積が増加する一方で品質の高位安定も求められており、摘果・夏季剪定といった基本技術の励行が欠かせません。また、カメムシ類や夜蛾類による被害の増加など、カキ栽培における防除の負担は近年増加傾向にあり、防除作業の省力・軽労化も喫緊の課題となっています。

このような状況もあり、摘果・夏季剪定の研修会およびスマート農機の実演会を今津町柿部会が企画・実施され、部会員15名、生産者3名、関係機関6名の計24名の参加がありました。当課は研修講師のほか、スマート農機の実演会に向けたメーカーとの調整を担当しました。

摘果・夏季剪定の研修会では、当課の説明ののち部会内に2名おられる「滋賀くだもの作り名人」が摘果・夏季剪定を実演しながらその考え方を解説されました。部会員はこれまで自身以外の部会員の実際の作業やその考え方に触れる機会があまりなかったこともあり、活発に議論が交わされ、非常に有意義な技術研鑽の場となりました。

スマート農機の実演会では、遠隔操作や自動運転が可能なスピードスプレーヤの機能や性能を見学するとともに、感水紙を活用して散布状況を確認し、コンパクトな機体ながらも有する性能の高さを実感いただきました。

当課は引き続き、今津柿の収量・品質の向上を図るとともに、担い手を始めとした生産者の省力・軽労化に向け、支援してまいります。



滋賀くだもの作り名人による実演・解説



自動操舵スピードスプレーヤの実演